

平成29年度行政評価シート【個表】

平成 29 年 6 月 19 日

評価対象事業		評価者	鎌倉国宝館副館長 内藤 浩之	
文財-08	実施事業	国宝館管理運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 鎌倉国宝館
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保存、調査・研究、情報の充実

1 事業の目的

対象	市民等
意図	鎌倉ゆかりの文化財を収集、受託、保管し安全に後世に伝えるとともに、調査・研究、展示をとおして市民等の利用に供するため。
効果	現在国宝7件45点、重文91件888点をはじめ、館藏品・寄託品併せて1,000件、5,000点を超える収蔵品を保管し、文化財の保全と活用を図る。

2 平成28年度に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉国宝館を円滑に運営するため鎌倉国宝館協議会を開催し、また、非常勤嘱託員及び臨時的任用職員を雇用した。 ・(公財)氏家浮世絵コレクションの円滑な運営を図るため補助金を交付した。 ・7回の特別展と2回の平常展を開催し、また、関係図書を出版・頒布して市民等の利用に供した。 ・収蔵資料を良好な環境の下で保存管理した。 ・鎌倉国宝館の適切な維持管理を行った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	27年度決算		28年度決算		データ区分	29年度当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	177,243人	80,676世帯	176,869人	80,928世帯	176,466人	81,150世帯		・各年3月31日(住民基本台帳)
事業の対象者数								
運営資源状況	決算値(千円)	49,196	114,186	当初予算(千円)	95,742			
	国県支出金			国県支出金	4,025			
	地方債			地方債				
	その他	18,483	19,497	その他	22,935			
	一般財源	30,713	94,689	一般財源	68,782			
	人員配置数	4.0	4.0	人員配置数	4.0			
事業経費運営	人件費(千円)	30,153	29,955	人件費(千円)	30,633			
	総事業費(千円)	79,349	144,141	総事業費(千円)	126,375			
	市民1人当りの経費(円)	448	815	市民1人当りの経費(円)	716			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	○-2. 適正な受益者負担を導入している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー 鎌倉国宝館友の会 (公財)氏家浮世絵コレクション 玉縄城址まちづくり会議
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 見直しの内容 事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 鎌倉ゆかりの文化財をより安全に後世に伝えるには、施設の老朽化や免震設備未設置部分への対策を実施する必要があるため。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、バリアフリー対策が喫緊の課題であるため。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	・鎌倉国宝館は鎌倉市域、近隣の社寺に伝来する貴重な文化財の寄託を受けており、これらを後世に伝えていくために必要不可欠な施設であることから「関連・類似事業との統合」の可能性は無く、廃止による影響は大きい。 ・事業の方向性や手法は概ね適切であるが、更に鎌倉の歴史や文化に関する情報や学習機会を提供していくための収蔵品の充実、展示や講座の積極的な実施、学校教育・生涯学習事業との連携などに努めていく。 ・観覧料の導入等により受益者負担は公正・公平である。また、関連団体との協働事業を実施している。	

平成28年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品の充実を図り、魅力ある展示を企画し入館者の増加を図る。 ・昇降機更新や免震設備対策の検討を継続する。 ・学校教育の場としての利用を促進する。 	
課題解決のために行った平成28年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに、寄贈品が1件、寄託品が2件増えるなど収蔵品が充実した。 ・昇降機の更新、免震型展示ケース2台の導入を行った。 ・特別展開連講座や出張講座といった一般向けの公開講座を実施したほか、市内外の小中高等学校の学校行事による利用について、特別解説等を実施して学校教育との連携を図った。 	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品を更に充実させ、魅力ある展示やその他の催しを企画し入館者の増加を図る。 ・施設の老朽化への対策、免震設備対策、バリアフリー対策を継続する。 ・学校教育の場としての利用を更に促進する。 	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	平成28年度入館者数(人)								
団体名	鎌倉市	神奈川県	神奈川県	横浜市	川崎市				
他市実績	鎌倉国宝館	神奈川県立歴史博物館	神奈川県立金沢文庫	横浜市歴史博物館	川崎市市民ミュージアム				
	44,961	29,844	37,714	137,050	181,910				

比較事項	平成28年度観覧料収入(千円)								
団体名	鎌倉市	神奈川県	神奈川県	横浜市	川崎市				
他市実績	鎌倉国宝館	神奈川県立歴史博物館	神奈川県立金沢文庫	横浜市歴史博物館	川崎市市民ミュージアム				
	14,597	2,256	5,642	5,867	12,115				

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	周辺の公立博物館との比較からは、入館者数では見劣りがするものの、観覧料収入では他館を上回っており、人口および組織の規模を考慮すると、健闘している。今後も引き続き魅力ある展示を実施することにより、入館者および観覧料収入の増加に努めていく(神奈川県立歴史博物館は平成28年5月30日～平成30年4月下旬まで改修工事のため休館)。
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	入館者数	単位	人	指標の傾向	↘	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31
当該事業へのニーズや反響を把握するため。	目標値	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000
	実績値	30,875	50,585	44,961			
	達成率	44.1%	72.3%	64.2%			

指標の内容	観覧料収入	単位	千円	指標の傾向	↘	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31
当該事業を実施することにより、もたらされた収入額を明らかにする。	目標値	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500
	実績値	10,369	16,139	14,597			
	達成率	48.2%	75.1%	67.9%			

指標の内容	免震型展示ケース等導入実績	単位	%	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31
来館者の安全を確保するとともに、展示資料を保護し後世へ伝えるため。	目標値			60.0	70.0	80.0	100.0
	実績値			60.0			
	達成率			100.0%			

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、平成27年度に比べ入館者数がふるわず、観覧料収入も減少した。収蔵品の充実を図り、魅力ある展示やその他の催しを企画して入館者の増加を図るとともに、展覧会についての積極的な広報活動を行うことで観覧料収入の増加に努めていく。 ・免震型展示ケース等の導入実績については、既存の独立型展示ケース2台を免震機能付きケースに更新することで目標値を達成できた。
-----------------------	--